

# 公 渕 池 (きんぶちいけ)

## 位 置 図



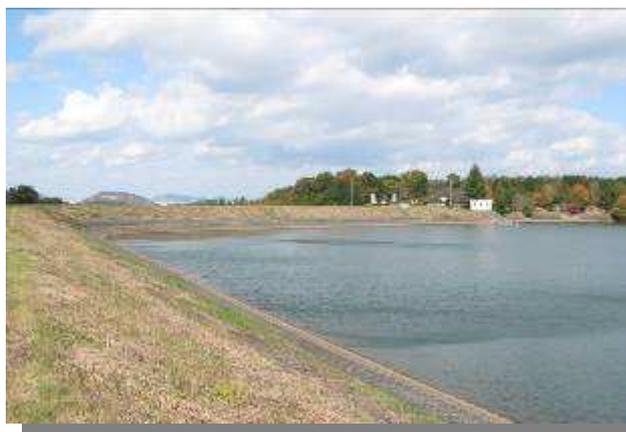
## 諸 元

貯水量	1,760 千m <sup>3</sup>
満水面積	26 ha
受益面積	1,123.5 ha
堤高	27.8 m
堤長	260 m

公渕池は、高松市南部に位置するため池で、築造前は周辺に神内池・松尾池・城池が既に築堤されていましたが、新田開発や5、6年に1度の割合で襲い来る干ばつ被害を防ぐため、高松藩最後の普請として文久2年(1862年)4月に着工し、翌、文久3年9月に完成しました。当時の池は現在も減水時に見える中堤防までの池で、貯水量は720千m<sup>3</sup>ありました。

その後、昭和5年(1930年)12月から昭和8年(1933年)3月にかけて行われた県営工事により現在の公渕池が完成しました。当時は大型建設機械が無い時代なので、杵で土を突き、足で踏み固める「千本突き」という手法で築かれた公渕池は、県内屈指の貯水量と高い堤を有する大きなため池として今に至っています。前述の神内池・松尾池・城池のほか、後に築堤された神内上池・坂瀬池とともに春日川水系の1,100ha余の農地を潤しています。

また、昭和50年(1975年)には公渕池と城池を中心とした124haが公渕森林公園として整備され、春にはサクラ、秋はモミジなど1年を通して美しい自然の景色を楽しむほか、芝生広場やアスレチックジムには多くの親子連れが訪れるなど県民憩いの場として親しまれています。



公渕池



芝生広場